

国連障害者権利委員会レポート

石川准さんに聞く～第21会期～



3月11日から4月5日にかけての4週間、スイス・ジュネーブにある国連欧州本部パレ・デ・ナシオンで、第21会期障害者権利委員会（Committee on the Rights of Persons with Disabilities＝CRPD）が開催された。日本から委員として参加している石川准さん（静岡県立大学教授・東京大学特任教授）は、就任して3年目。権利委員会の執行部にも入り、存在感を増している。4週間にわたる会期に加え、翌週の事前ワーキンググループのセッションにも出席した石川さんにお話をうかがった。（構成・本誌）

■副委員長就任と初めてのチェア

昨年、CRPD委員18人の半数9人の改選が行なわれ、その結果7人の新委員が委員会に加わりました。また、ロシアの委員が辞任をしたため、同国から別の委員が推薦されました。

この改選によって、以前から問題視されていた、性別と地域の不均衡がある程度解決されました。女性の委員が以前の1人から6人になり、また、西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・アジア・アフリカ・アメリカの5つの地域的なバランスも改善されています。

今回はCRPDの執行部の選挙も行なわれました。委員長1人と書記1人は無投票で決まりましたが、3人の副委員長には、

6人が推薦され、投票の結果、私も副委員長の重責を担うことになりました。任期は2年です。

このような新体制でスタートした第21会期ですが、審査待ちの国（バックログ）が多い状態は変わっていません。会期も徐々に延びて、最近では春夏それぞれ4週間と長期化しています。私は今回、会期後に行なわれる事前ワーキンググループの会議にも出席しました。

事前ワーキンググループは、次回もしくはその次の会期で審査される国への「事前質問事項」(List of Issues)を採択するための会議です。私はミャンマーの審査のカントリーレポート（事前質問事項の作成で中心的役割を果たす国別報告者）になっているため、この会議にも参加しました。

さて、第21会期の審査対象国は、キューバ・ニジェール・ノルウェー・ルワンダ・サウジアラビア・セネガル・スペイン・トルコ・バヌアツの9か国でした。

この内、ニジェールとセネガルとの建設的対話で、私は初めてのチェア（議長）を務めました。副委員長の重要な職務の1つです。通常の委員席とは違い、壇上から審査対象国の代表団と委員会の対話を聞くわけですから、いつもよりも集中力が上がり、英語もよく聞き取れたようです。前回の第20会期（本誌



権利委員会の執行部5人で。
左から、アメリア・ガミオさん（書記、メキシコ）、ジョナス・ルスクスさん（副委員長、リトアニア）、ローズマリー・キースさん（副委員長、オーストラリア）、ダンラミ・ウマル・バシャルさん（委員長、ナイジェリア）、石川さん（副委員長）。